

8月 月例会

【日 時】令和 8年 8月29日 (土曜日) 13時から17時
【会 場】中央区・堀留町区民館 参加者 17名 リモート参加 6名
第一部 【勉強会と懇談会】

【研究発表】 研究発表「『日本書紀』の記事移動(1)」 正木 裕氏

(1) 説明要旨：副題は「『日本書紀』が隠そうとした倭国(九州王朝)の王たちの事績」。研究発表の全体像は三点です。今回は、①についてでした。

- ①「干支の巡り」と記事移動、②白村江敗戦以前の記事の天武・持統紀への34年繰り下げ、
- ③九州年号を利用した年号変換による記事移動。

(2) 発表項目：

- ①『日本書紀』の記事移動、②「南島諸国による朝貢」の60年(一運)繰下げ、
- ③「半島出兵」の60年(一運)繰下げ。

(3) 発表内容：

- ①に関して、書紀に散見される「年次移動の類型」・干支循環と神功紀二運繰上げ・新羅討伐と神功紀二運繰下げ・二運繰下げで隠した四世紀の倭王旨。
- ②に関して、多禰島人朝貢の一繰運下げ・朝貢した「京」は太宰府・南島人と隼人一斉朝貢の一運繰下げ。
- ③に関して、西暦600年に征戦があったか・600年の新羅戦は540年の事実・601年の新羅戦は541年からの繰下げ・622年の新羅戦は562年からの繰下げ・60年前と同じ大副将軍が新羅を討伐。

(4) 質疑等：主な項目として、

- ①神功紀120年のズレの基準年を389年とする根拠。
- ②『日本書紀』の該当記事の信憑性。
- ③百濟国は倭・日本国をどう呼んだか、等。
- ④懇談会でもオンライン間でのやり取りが続きました。

(5) 感想など：説明が簡潔で、内容がよく理解できたと思います。(説明85分、質疑40分)

【懇談会】

- ①リモート間で【研究発表】の質問を継続しました。
- ②会長から「和田家文書を持って江戸城関連三社を巡るハイキング」を10月7日(水)実施予定の告知
- ③正木さんから「古田史学の会」記念東京講演会の開催案内、
- ④北海道から参加の和田高明さんから「最近の活動状況(特に九州各地での調査)報告」がありました。(30分)

【勉強会】 「古田武彦『邪馬壹国の論理』その2」

（1）履修対象：

第二編の第一章〔邪馬壹国への道〕・第二章〔直接証拠と間接証拠〕。

（2）履修内容：

第二編は四章から構成され、いずれも古田説への批判に対する先生の反論が掲載されています。

①第一章は榎一雄氏への再批判、第二章は後藤孝典の「好太王碑文の見解」に対する批判です。

②各章を構成する全節から要点を抽出しての解説と説明でした。

（3）重要事項・質疑等：

①論点が極めて専門的なため、詳細な説明はありませんでした。興味のある方は原文に当たってみて下さい。

②感想として、先生の反論は「とてもきつい」でした。（解説・質疑35分）

【読書会】 「清寧他天皇紀その3」

（1）対象：「顕宗天皇紀」元年～三年でした。

（2）主要記事の紹介：

①弘計王の即位、

②老女・置目の働きで亡父・市辺押磐王の遺骨採集埋葬、

③即位関連の賞罰等、

④亡父の仇・雄略天皇陵を暴くことを天皇が断念、

⑤任那への遣使関連と天皇崩御、

⑥紀生磐宿禰の三韓王への野望、などでした。

（3）説明の内容：元年～三年条の原文記事・頁注釈・補注と現代語訳を例示しての説明でした（この紀は今回で終了）。

（4）質疑等：

①元年と二年条の記事は『古事記』と類似している、

②「曲水の宴」など、登場する用語に九州王朝史書からの盗用が疑われる、などでした。

（解説・質疑30分）